

日本聖公会東京教区

2007 年 4 月 8 日発行

No. 8



正義と平和協議会便り

東京教区正義と平和協議会 議長 司祭 李民洙 港区芝公園 3-6-18 TEL: 03-3433-0987

正義を行い、慈しみを愛し、

へりくだって神と共に歩む

東京教区正義と平和協議会前議長 司祭 香山洋人

昨年末で議長を退任しました。安堵する一方、東京教区初の大切な職責を十分果たしえなかったことを申し訳なく思い、自分自身残念でもありません。『正義と平和協議会』発足時の混乱や試行錯誤の中、会員に加わってくださった方々、団体のみなさまにお礼申し上げますと同時に、今後ますますのご活躍をお祈りします。

この協議会が発足するはるか以前から、東京教区は正義と平和に関する働きを担ってきました。教会としての公の活動として、聖職や信徒の個々の取り組みとして、また、エキュメニカル運動や市民運動の中で聖公会の人々が活躍しているのはよく知られていることです。ですから、協議会の発足はそれによって新たな事業を展開するといつよりもすでに行われている種々の働きを活性化し相互に連帯するお手伝いをするためのネットワークづくりであったと思います。

これまででは、会員それぞれの働きを具体的にどのようなお手伝いできたのかはなはだ心配です。また、これまで地道な活動をしてこられた方々の声を受け止めたり、課題を示していただいたり、こちらから呼びかけをしたりといったコミュニケーションが不十分であったことも大いに反省しています。

▼深刻化する課題

この間、戦争と暴力が加速し、国家主義、排他主義が深刻化し、侵略、核武装が公然化する国際社会の中で、日本の政治指導者も全体主義的傾向をあらわにし、社会の隅々で管理と排除の思想がますます強くなる危機的な状況であったことを考えるにつけて、キリスト者の責任、『正義と平和』を課題とするわたしたちの責任が厳しく問われることと思いますし、その中で責任の一翼を担ってきたわたし自身の責任は重大であったといわざるを得ないでしょう。

▼キリスト者の責任として

正義と平和協議会は、教会の使命として正義の実践、平和の実現は本質的なものであるといつこと、それは組織としての課題である以上にキリスト者一人一人の使命、洗礼の約束に基づくものであるといふ点を喚起する働きを心がけてきました。

公開講演会として行われたプログラムでは、地道な実践において、神学的見識において、教会のリーダーシップにおいて、それぞれ優れた講師をお招きしてメッセージをいただきました。

そつした中で任期の最後にお引き受けした今年一月の私の講演会は、これまでの講演からは著しく見劣りするものになってしまいました。が、教会とキリスト者にとって『正義』や『平和』がいかに大切な主題であり、信仰者として生きることの本質

に関わっているかという点について話をさせていただきました。以下はその記録といつよりも、当日お伝えしたかったことをあらためてまとめてみたものです。

▼三つの回心

預言者ミカは「人よ、何が善であり、主が何を前に求めておられるかはお前に告げられている。正義を行い、慈しみを愛し、へりくだって神と共に歩むこと、これである」と語りました(ミカ書第6章)。

ドールによれば、これはキリスト者の霊性を構成する三つの次元、すなわち「へりくだって神と共に歩む」という宗教的回心、「慈しみを愛する」という道徳的回心、「正義を行う」という政治的回心を示しています。これら三つのことがらをバランスよく保つこと、自らの生き方、組織としてのあり方において個人的、対人的、政治的それぞれの領域における回心が「霊性」という言葉で表現されてきたものの内実である、とドールはいつています。

一方、グティエレスは、これらを三つの別々の領域としてとらえるのではなく、一つの生き方として統合することこそが重要だといっています。つまり、「正義を行う」とは公正な社会創造への参与であり、「慈しみを深く愛する」とは責任ある行動であり、「神とともにへりくだって歩む」とはめぐみに満ちた生活である。すなわち預言者ミカのメッセージは「公正な社会の創造に参与し、そこで責任ある行動をとって生きる」とは、なんともめぐみに満ちたこ

とだろうか」といふ一つの言葉として受け止められる必要がある、といつのです。

▼貧しくされた人々に学ぶ

「公正な社会の創造に参与し、そこで責任ある行動をとって生きる」ためには私たち自身の視点の変化が必要になります。大阪の釜ヶ崎で日雇いの労働者やホームレスの人々とともに働くロスマカトリック教会の本田哲郎神父は、社会正義の霊性の主眼は、「小さくされた人々」こそが解放の主体であると知ることだといっています。

彼らは社会的弱者だが、単に弱い立場に追いやられた人々であって実際に弱い人間なのではない。そして、われわれ中流以上のキリスト者は聖職者を含め、彼らに対して教える立場ではなく、学ぶ立場なのだと言います。もちろん、小さくされた人々と豊かな人々と、どちらが正しいかということではありません。富める者も貧しい者も等しく過ちを犯すのですが、そのタイプが違います。両者では発想や選択基準が違うのですから、われわれが貧しくされた人々の感性に学ぶ必要があるのではないかと。

▼基本的な働きとしての「正義と平和」

ドールやグティエレス、本田哲郎などを紹介しながら、正義と平和の課題とはいわゆる「政治的」なことだけではなく、信じて生きる姿勢そのものと深く関わっていると申し上げたつもりです。

もちろん「人間の営みはすべて政治的だ」ともいえるのですが、教会が行っている人権運動や社会運動はせいぜい牧会次元のことからであって、文字通りの政治運動、社会運動にはなれないと思います。人間の痛みや苦しみ、正義や平和に関することがらを取り上げることすらできないとなれば、教会の交わりは単なる「社交」の場と化してしまつてしまふ。あたりさわりのない挨拶や世間話のためになら教会は必要ありませんし、イエスキリストとその福音について堂々と語る場であることが教会の真の魅力であり、それを失えば教会は早晚死滅するでしょう。

「正義を行い、慈しみを愛し、へりくだって神と共に歩む」こと、そして、「公正な社会の創造に参与し、そこで責任ある行動をとって生きる」とは、なにとめぐみに満ちたことだろうか」と心底実感しそれを伝え、そのことを分かち合える仲間を一人でも多く見出すことが教会の基本的な使命です。「正義と平和」の働きとは、ただその基本的なことを述べているに過ぎないのです。

キリストの愛の中にある『正義と平和』

東京教区正義と平和協議会議長 司祭 李民洙

▼正義のない平和は平和ではない

私は「正義と平和」という言葉について一つの思いがあります。一九八〇年代後半だったと思います。韓国ではまた民主化闘争が続いていた時代でした。ある日、韓国基督教放送局(BCS)のラジオ番組を聞いていると「正義のない平和は平和ではありません」という声が聞こえたのであります。

時代が時代でしたので私は驚きとともに、瞬間「なるほど」とうなずきました。今は誰もが当たり前のように知っている言葉ですが、当時、韓国では自分の職を奪われることを覚悟しなければならぬいほど危険な言葉だったのです。

基督教放送局とはいえ公共電波を発信する放送局が、軍部独裁政権が嫌う言葉を放送するのは凡人には計り知れないほどの勇気が必要だったのではないかと思います。おそらく韓国基督教放送局としては「正義のない平和は平和ではありません」という言葉を電波に流すそれ自体が宣教であるという強い使命感を感じていたでしょう。これは誰も予測しなかった出来事でした。

「平和」は、残念ながら「平和」という言葉だけで「平和」の説明ができる時期は終わったのではないかなと思われまふ。なぜならば、「平和」と言いながらじつは破壊行為を求める「偽平和論」がたくさんあるからです。「安全」と「平和」という語を並べ「平和」という言葉で人権を抑圧する者たちがたくさん存在しているからです。十数年前まで、韓国民衆の人権を蹂躪した韓国独裁政権もその一つであると言っているでしょう。国民の安全と平和のため

には部分的に正義を制限することは仕方のない必要悪であると唱える「平和論」は邪論であります。それを察知した韓国基督教放送局はだから「正義のない平和は平和ではありません」と放送しはじめたのであります。

▼キリスト者たちの「正義と平和」

いかなる理由によっても「平和」を口実として「正義」が制限されてはならない。いかなる状況においても「正義」の目的が「平和」であることを揺るがしてはならない。「正義」と「平和」は同時に求められるべきであり分離して考えてはならない。という「正義」と「平和」の理解にはまったく同感です。だから、「正義」と「平和」ではなく「正義と平和」なのです。しかし、最近「正義と平和」だけでいいのが、一般的に言われている「正義と平和」とキリスト教が言う「正義と平和」とは何が違うのか、という疑問を抱くようになりました。

まず、一般的に言われる「正義と平和」とキリスト教がいう「正義と平和」は基本的にそれほど違いはないと思っています。しかし、最近、この二つの用語だけではどうも十分ではないという思いが強くなってきました。今日行われている世界の戦争や紛争を見ても、各自の立場から訴えているように「我々の正義のために」とか、「恒久的平和のために」という言葉はよく聞こえるんだけれども、結局、人間には現在進行中のすさまじい殺傷の傷跡を癒す力は与えられてないように感じられるから

です。

結論を申し上げますと、わたしはここにキリストの愛がどうしても必要であることに気づきました。私たちに必要とすることはただの「正義と平和」ではなく、「キリストの愛の中にある『正義と平和』でなければならない」ここに一般的に言われる「正義と平和」とキリスト教が言う「正義と平和」との違いがあると言えるでしょう。

私たちの働きは「キリストの愛の中にある『正義と平和』」であることを覚えながら一歩一歩その道を進んで行きたいと思えます。

みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。



バーンサバイ・共の会へのお誘い

牛込聖公会聖バルナバ教会 植田栄基

滞日タイ、フィリピン人女性へのシェルターとして始まった「HELP・ヘルプ」で働いていた早川文野さん、青木恵美子さんが、まるでバーンサバイ設立のための準備であつたかのような二十年をおのおの経て神様の導きであつたと思えない形でチエマにバーンサバイを立ち上げ、五年が過ぎました。昨年十二月には新しい土地に移転し、患者さんのための部屋数を増し、事務所、台所も充実したものになりました。さらにゲストハウスがどうして

東京教区正義と平和協議会に加盟している団体

カパティラン 代表 松田正人
カウンセリングライン 03(3432)3055 ビジネスライン & FAX
03(3432)6449
ホームページ <http://www.nskk.org/tokyo/kapatiran/>

女性が教会を考える会 代表 前田恂子
TEL 042-336-8524 FAX 042-336-8524
E-mail lucijunkom@hotmail.com

東京教区 聖公会生野センターと共に歩む会 代表 城下 彰
E-mail kayama@rikkyo.ne.jp (司祭 香山洋人)
聖公会生野センター ホームページ <http://nskk.org/province/ikuno/>

サラームパレスチナ 代表 司祭 神崎雄二
TEL 03-3641-3895 FAX 03-3641-3926 聖教主教会内
E-mail kanzaki-y.tko@nskk.org

東京教区「障害者」関連活動連絡会 代表 執事 日高馨輔
TEL 03-3268-8067 FAX 03-5228-3198 牛込聖公会聖バルナバ教会内
E-mail hidaka.tko@nskk.org

ヒューマンシールド神戸 代表 吉村誠司
E-mail hskobe@ybb.ne.jp
ホームページ <http://spaces.msn.com/chikyunikki/>

五本木九条の会 代表 関ノリ子
TEL 03-3489-3808 FAX 03-3489-3808
ブログ <http://blogs.yahoo.co.jp/gohongi9>

オウルリムの会 代表 司祭 田光信幸
TEL 042-381-3256 FAX 042-381-3266 小金井聖公会内
E-mail tamitsu.tko@nskk.org

バーンサバイ・共の会 代表 佐々木紀久江
TEL 0471-53-4539 FAX 0471-53-4539
E-mail k_sasaki4539@ybb.ne.jp

も必要といつとて、建築を始めました。
設立当初、日本からタイ帰国したものの故郷に
帰れないエズ患者の女性たちのシエルターをめざ
していましたが、入所するのはタイ北部、ビルマ
オス等からの入国者でタイ国内で差別偏見を受
け、行き場を失った人々が多くなっています。

▼行き場を失った人々とともに
タイは日本よりエズ教育に力をいれてきました
ので、誤った見方は少なくなったとはいえ山間部に
暮らす人々には偏見も多く、何より貧しさから家
族が看護を放棄してしまつた状態になっています。
免疫レベルに近づいた患者さんに対する投薬、
病院への搬送、目に見える形での看護、介護を行っ
ています。さらに今までの過酷な生活、病気による
絶望感から生きる希望を失ってしまった人々を力
づけ、一人一人を大切に受け入れ、患者さんが自
分の持っている力に気づき、もう一度新しい人生を

始められるよう願って活動をしています。
スタッフは、同情や哀れみからではなく、神様か
らかけがえのない生を受けた者どうし共に楽しく
生きましょつ、おのおの与えられた賜物を出し合っ
ていきましょつと、患者にもそうでない者にも呼び
かけておられます。

▼生きる喜びを共に

隅に追いやられた人々の友であったイエズ様に従
つていくだけ、といつ信仰を表現しているその姿に
共鳴して、「共の会」を立ち上げました。各教会に
配布させていただきましたちらしをご覧いただき、
ご入会下さいますよつ、お願い申し上げます。み
なさまの御意見をいただきながら活動してまいり
たいと思っております。

建築中のゲストハウスは、長期短期を問わずゆっ
くり過ごしたいボランティアをしてみたい、教会の
キャンプに使いたい等、さまざまな用途に使われま
す。日本からの来訪者はスタッフの精神的ケアのた
めにも大歓迎されます。柱一本、
屋根一枚でも助けられれば、と
思います。

国内外を問わず、神様のみこ
ろを行おうとする働きはさまざ
まありますが、ここにその一つ
の活動があることを覚えていた
ければ幸いです。

